

蔡英文理事長講演要旨 台湾經濟の新たな未来〜アジア進出で好機を掴め

昨年九月と今年三月、インドとインドネシアに行き、政府当局、商工団体、(現地の)台湾系企業、及びシンクタンクを訪問しました。そこで私はアジアの躍進を実感しました。アジアの国々には豊富な労働力と、巨大な可能性を秘めた内需市場があります。強い自信と意欲に満ち溢れ、彼らはいろんな政策を通して、投資のチャンスを獲得しようとしております。

台湾はこの好機を掴まなければなりません。アジアに再び進出して、アジアをもっと深く理解しなければなりません。その際、東南アジアの台湾系企業、台湾の(東南アジア系の)外国人労働者、外国人配偶者は、良い繋がりになってくれると思います。私たちはこのような繋がりを活用し、経済においても、文化においても、全面的に東南アジアと連携し、台湾人に対して、私たちはアジアに存在していること、そしてアジアの一員であることを、再認識させる必要があります。

今、台湾が直面している最大の脅威は、国際社会からの孤立です。台湾は絶えず(国際社会の)加入を求めなければなりません。こうした孤立の状態を打破し、激変する国際経済の中で、ただ守りの態勢に甘んじるのではなく、ひいては国際社会の表舞台で主役を演じるには、台湾は経済体制を抜本的に変革する必要があります。まず、台湾の経済発展を中国の一極集中の状態から転換し、貿易構造を大いに調整して、均衡のとれた貿易政策に変えることです。既存の貿易パートナーとの関係を強化し、新たな市場を切り開くことも大切です。特に東南アジア、インドなどの新興市場は、今までの倍以上に努力することです。同時に多角的枠組(例 WTO 世界貿易機関)を活用して、多角的自由貿易協定(例：TPP 環太平洋連携協定、RCEP 東アジア地域包括的経済連携)への交渉参加、市場の把握力の強化などをはかり、地域経済統合を通して、できるだけ貿易相手を多様化することです。

台湾は大切な貿易パートナーと、より一歩進んで効率的な提携方法を見出す必要があります。例えば、日本企業と提携して、インド、インドネシアなどの新興市場で、共同開発することです。台湾企業はコスト引下に長け、素早く対応するに優位があります。日本企業は重要な技術において、研究開発に優れております。台湾と日本の企業はある程度の相互補完性があり、双方が協力し合えば、新興市場の開発効果も向上して、台湾産業の構造改革に繋がります。

同時に、マクロ経済の発展目標の調整、最適な経済産業の発展モデルの採択、台湾にとって最も有利な兩岸経済路線の採択、公平な経済発展方向の具現化、エネルギー政策の調整、及び社会福祉厚生制度の改革などを含みまして、強力でかつ効率的な方法で、台湾経済を内部から構造改革する必要があります。こうして、台湾の産業構造が向上することにより、外部環境の干渉を容易に受けない、より優れた自立性を確保することができると思います。

台湾はもっと世界に進出して、アジアにおける新たな位置付けを見つけることも大切です。多角貿易の枠組においても、地域経済連携においても、中国とその他の国と共に、貿易面や安全面において、共通の目標と秩序を確立できるようにしなければなりません。そして、多角貿易や地域経済において、共通の利益に基づき、中国との対等的な関係を築くことも重要です。

そして、なにより大切なのは、台湾の自由民主を確保することです。今後ますます厳しくなる外部環境において、そして、ますます増大する中国の影響力の中で、台湾人の集団意識、すなわち台湾コンセンサスを最大限に活用するのみが、外部干渉の影響力を最低限に抑え、台湾の自由でかつ多元的な価値観を確保することができます。自由民主のみが、台湾の安全と繁栄を確保できる。自由民主のみが、兩岸と地域の平和と安定を確保できると、わたしはそう確信しております。